

社外取締役メッセージ

昭和産業グループのガバナンスに重要な外部の視点をもたらす社外取締役よりメッセージをいただきました。



内外の行政経験を活かして 昭和産業の企業価値向上に貢献します

社外取締役
柄澤 彰

この度、2024年6月の株主総会において、昭和産業の社外取締役に就任いたしました。私は、1983年から2018年までの35年間、農林水産省において、様々な分野にわたる食料・農林水産政策の企画立案に携わってまいりました。特に最後の数年間は、米、麦、砂糖など主要穀物に関する政策責任者でしたので、そのような立場から製粉業界をはじめとする関連業界を見てまいりました。その中で昭和産業は、他社と異なり製粉事業など特定の事業のみに特化せず、製油や飼料など他の食料部門でも広く事業を展開するという独自の戦略を持たれているイメージを持っていました。食に対するニーズがかつてないほど多様化している今こそ、昭和産業がその複数の



事業分野のシナジー効果を発揮できるメリットを最大限に活かせる時だと大きな期待を持っています。

私自身は、農林水産省退官後には、3年半ほど在パラオ共和国特命全権大使も務め、広く内外の行政経験を積んでまいりました。企業経営に直接携わったことはありませんが、行政を進めていく上では、常に消費者や国民の目線に立った的確な政策判断が求められると同時に、法令の規範に厳格に従うコンプライアンスや、国会やメディアなどに対する詳細な説明責任も求められます。このような私の行政経験を最大限活かし、社外取締役として昭和産業の企業価値向上に貢献してまいります。

さまざまな施策が成果を生み 収益性を高めていくことを期待しています

社外取締役
三上 直子



一つの企業グループで複数の穀物を取り扱うという国内では他に類を見ない「穀物のプロ集団」として、昭和産業グループは自らの強みを強く自覚し、穀物由来のバラエティー豊かな食品素材と加工技術を掛け合わせ迅速にお客様へ「穀物ソリューション」として提供するというシナジーを発揮していると実感しています。

長期ビジョンの最終ステージである「中期経営計画23-25」についてはロジカルで具体的な施策が着々と実行されるとともに、その妥当性評価がきちんとなされています。

2023年4月より基盤事業強化のために抜本的な営業組織改編を行いお客様ごとに最適なソリューションを提供する「ワンストップ型」営業組織へ変革しましたが、提

案力が強化された成果が今後さらに具体的に成果として経営数値に現れてくるものと期待しています。また、これまでTOBによる買収、M&Aの実施で各事業が拡大しましたが、各事業が持つ機能が戦略的に集約されたことにより収益性が高まり経営数値に貢献したことを評価しています。

今後は海外展開に加え付加価値の高い新規事業開発を加速し、収益性をさらに高めていくことに期待しています。

サステナビリティにおける積極的な取り組みも取締役会に報告され、建設的な意見交換が行われています。今後もさらなるガバナンスの強化とともに企業価値の向上に資してまいります。

多くの社外役員経験を活かして 昭和産業グループのガバナンスに貢献します

社外取締役
平 真美



私は2024年6月の株主総会において社外取締役に就任いたしました。昭和産業グループでは長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」の最終ステージとして昨年「中期経営計画23-25」を策定され、2023年度はその第一期目として増収、増益を達成、その中でも特に創業以来初となる抜本的な営業組織再編を行うなど、将来のありたい姿に向けて着実に前進していると実感しております。

一方、昨今の株式市場からは資本コストや株価を意識した経営の実現とともに、ステークホルダーエンゲージメントの向上、ESGやサステナビリティ経営の推進など、様々なガバナンス向上に対する要求がなされております。

昭和産業グループは、これら市場からの要請を中期経営計画の5つの基本戦略のうちの持続的成長を支える戦略③、④、⑤と位置づけ、さらなる企業価値向上へつなげるべく「深化」させるとし、大変期待しているところです。

私は公認会計士として数々の企業の財務戦略に携わり、また社外役員としてコーポレートガバナンス改革の黎明期より各社のガバナンス体制の再構築と同時に、女性活躍推進をはじめとするダイバーシティ経営に関わってまいりました。このような経験を活かし、財務・ファイナンス分野にとどまらず全般的なガバナンスに対してのモニタリングやアドバイスを通して、昭和産業グループのさらなる企業価値向上に貢献してまいりたいと思います。